

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	○○○○	変更又は改善内容
1-1-② 独立性の確保		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	実施場所は、受託法人の施設等から独立した場所に設置されているか、又は受託法人の施設等内に設置されている場合であっても事務所、面接室、電話、FAXなどが社会福祉施設等とは別に専用のものとして用意されている。		<p>基本的に平日のみ開所しているが、平日の来所が困難な方、もしくは早朝夜間しか来所できない方に対しては、事前に予約を頂いて、相談員が対応する形をとっている。</p> <p>現在、グループホームの電話窓口を共有しているが、相談支援の独立性という観点から考えて、検討していく。</p>	
b	相談支援事業の経理は、同一法人内の他事業と明確に区分されている。		<p>運営に関する経理関係である、通帳、出納帳等、全て独立して管理している。</p> <p>今後も継続して現在の管理を行っていく。</p>	
1-1-③ 中立性・公平性の確保		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	相談支援を進めるにあたっては、利用者のニーズに基づき常に中立・公平な立場で社会資源を活用しており、特定の事業者に偏ることがないように配慮している。		<p>本人が希望する地域の事業所を優先して事業所紹介を行っているが、特にヘルパー派遣等については、介助者不足の点から重度障害者の派遣を受け入れることのできる事業所が少なく、結果的に偏ることがほとんどである。現状、住吉区だけでは引き受けることのできる事業所は少なく、区内に限らず、他区においても新規で重度訪問介護を受けられる事業所がない。</p> <p>全国的にヘルパー不足という問題は出ており、また区内でも重度訪問介護を撤退する事業所も出てきている。その中で、住吉区自立支援協議会における事業所ネットワークを作り、事業所間の横のつながりを強めていき、障害者の基盤整備をすすめていきたい。またヘルパー募集などについても共同を模索していきたい。</p>	
1-1-④ 専門性の確保		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	専門性を確保するための研修などに担当職員を積極的に参加させ、相談支援技術の向上に努めている。		<p>障害種別に対応した専門的な外部研修に参加しており、スキルアップ向上に努めているが、自立支援法施行により3障害統合の相談支援体制が必要で、これまで身体障害を主として相談を行ってきたこともあり、その他障害への相談スキルが十分とは言えない。</p> <p>スキルアップ研修への参加を行い、また、他知的、精神のC I L等からの助言を受けながら、各相談員の相談スキルのレベルアップを図っていく。</p>	
b	担当職員では判断や対応ができない高度な専門性が必要とされる相談内容の場合は、その分野の専門機関と連携して対応している。		<p>障害種別に対応した専門的な外部研修に参加しており、スキルアップ向上に努めているが、自立支援法施行により3障害統合の相談支援体制が必要で、これまで身体障害を主として相談を行ってきたこともあり、その他障害への相談スキルが十分とは言えない。</p> <p>スキルアップ研修への参加を行い、また、他知的、精神のC I L等からの助言を受けながら、各相談員の相談スキルのレベルアップを図っていく。</p>	

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容	
⑤ 個人情報保護		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a			個人情報保護のため、鍵付のボックス内にファイルを保管しており、外部からは開けられないように管理している。 鍵付のボックスは1つしかなく、今後新たなファイルの保管スペースが必要になってくるため、購入を検討していく。		
b			全体の記録の管理者は定めておらず、担当毎で管理をしている。 職員個人で管理している記録に関して、全体管理者を定めてないので、記録管理責任者を作り、一括して管理統一をしていく。		
c			記録の保管、保存、廃棄に関する規程等を定めている。 記録の保管、保存、廃棄に関する規定は5年間として定めており、これまでの記録は保管している。 今後も規定に準じて書類の保管を行っていく。		
d			記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育・研修を行っている。 記録の保管、保存、廃棄に関する規定は5年間として定めており、これまでの記録は保管している。 今後も規定に準じて書類の保管を行っていく。		
e			個別支援にあたっては各担当を決めているため、その担当者が記録管理をしており、利用者へ周知している。 継続して、担当者の記録管理を周知していく。		

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	○○○○	変更又は改善内容	
1-⑥ 苦情解決処理体制		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整備している。			<p>苦情解決責任者、受付担当者の設置、また解決に向けて時間を要して取り組むべき課題については、法人全体として課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>相談支援事業としての専門の第三者委員は設置していないが、法人としての第三者委員を設置しているので、それにより対応をしていく。</p>		
b 苦情解決の仕組みを説明した資料を利用者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。			<p>事務所内に相談支援における重要事項説明書を提示しており、その中に苦情解決窓口を明記している。またそれには拡大版とルビ版も用意しており、本人の状況に応じて使い分けている。</p> <p>必要な書類については今後も提示する。</p>		
c 苦情の検討内容や対応策を、利用者や家族等に必ずフィードバックしている。			<p>苦情やその他検討内容については必ず文章で作成し、訪問によってフィードバックを行っている。</p> <p>苦情への対策については、今後も継続してフィードバックしていく。</p>		
d 苦情を申し出た利用者や家族等に配慮したうえで、苦情内容及び解決方法、結果等を公表している。			<p>苦情の内容についてはプライバシーの関係があり、一般的に公表はしていないが、各種ケース検討会等で、苦情対応例としてあげることがある。</p> <p>プライバシーには十分な配慮が必要なことから、一般的に公表をしていくのは難しいが、対応の方法例として、必要であれば通信やホームページで公表していきたい。</p>		
1-⑦ 事業運営の評価		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a 事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示す中・長期的な計画が定められている。			<p>年度毎の具体的な取り組み総括と方針は作成しているが、3~5年の中、長期計画は具体的には作成していない。</p> <p>これまで年度毎の方針をベースに、漠然とした中、長期での計画はあるものの、具体的に立てていないので、今後、中、長期における計画の策定を行っていく。</p>		

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容
中・長期的な計画を踏まえた年度ごとの事業計画を策定している。			毎年度の事業計画、方針は策定しており、その都度、事業所内のスタッフ会議と法人全体の会議にて意思統一を行っている。 年度毎の評価と方針の策定など継続していく。	
中・長期計画、年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。			bにおける計画を実施し、その結果を総括として自己評価し、全体化している。またそれらの結果から、振り返りを行い、原因の分析と今後の課題を出し、次年度の方針につなげている。 これらについても継続していく。	
事業の評価にあたっては、利用者のニーズに基づいた支援が提供できているかを把握するよう努めている。			特に地域移行、ILPなど各種生活支援においては、そのニーズにあった支援ができたか、結果どうなったかを考察している。そしてそれらの原因分析を行い、今後の課題を出し、次年度への方針へ反映させている。 ニーズに合わせた各種生活支援を行っていく中で、前年度の結果を踏まえた支援を行っていく。	
事業の評価の結果は、次期計画に反映している。			毎年度の計画を具体的に振り返り、それらの原因分析を行い、今後の課題を出して、次期計画を策定している。 これらについても継続していく。	
1-2 適切な相談支援の実施			昨年度	今年度
1-2-① 自己決定の尊重	評価点		評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点:評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。			本人ニーズを第一に相談支援に心掛けて対応をしており、意思決定が難しい場合、選択肢を出し本人に選択をしてもらっている。特に長い期間施設に入所したり、自宅にこもっている方の場合、選択肢があっても、その選択肢を選ぶことで結果どうなるかわからないので、それらについても説明をした上での自己決定に配慮している。また、ILP等においても、参加する人が主体的に体験できるような企画を立てている。 法人、センターの理念としても、障害者主体の社会参加としていることから、どんな障害を持っていても、自分で選択して決定できるような配慮を継続していく。	

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3 ○○○○	変更又は改善内容
b 障害に応じたコミュニケーション手段を保障している。		<p>現在は、文字盤、手話通訳においては対応できておらず、今後体制が必要。</p> <p>相談者のほとんどは、文字盤、手話通訳においても自ら用意していることがほとんどなため、センターとしての準備ができていなかったが、文字盤については早急に用意をしていく。手話通訳については、必要な時に派遣できる体制を検討する。</p>	
c 安心して落ち着ける環境を確保している。		<p>相談者が望む場所、環境で相談をすることを優先して対応を行っている。例えば自宅で相談がしたい場合は訪問を行い、その他機関を望む場合はそこへ訪問して行うようにしている。</p> <p>今後も本人ニーズを優先して対応していく。</p>	
2-② エンパワメントの重視		評価点	評価点
a 相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。		<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)</p> <p>相談には個々様々なケースがあるが、基本的に全ての課題の背景にある本人ニーズの把握と全体の方向性から必要であれば個別支援計画を立て、その後細かい項目で支援の方向性を決めていく。その際、支援する側が一時的に立てるのではなく、本人に確認し、意思一致をした上で支援を行っている。</p> <p>例として、地域移行等へのきっかけ作りとしての集団ILPの開催(地域で暮らす障害者の話を聞く場を作る等)、個別ILP(体験宿泊、外出プログラム)への取り組みを繰り返す、段階を踏んで本人の経験を取り戻していく、そしてそれらの評価を本人と一緒に進め、次のステップへ進むかどうかを決める。また、当事者の目標を大事にしなが、ピアカウンセリングという手法を用いて、当事者のエンパワメントに繋げる。その中で課題を乗り越えていくよう取り組んでいる。</p> <p>今後も本人ニーズを捉えながら、相談者と一緒に課題を乗り越えていく支援をしていく。</p>	<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)</p>
2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価点
a 意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。		<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)</p> <p>相談者にあった形でのコミュニケーション方法は、本人の状況や意向に沿って行っているが、突然の来訪時への手話、点字への対応はできていない。</p> <p>手話、点字について手話については突然用意することができないので、事前予約の上すぐに準備できる体制作りを行う。</p>	<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)</p>
b 一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。		<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)</p> <p>言語障害を持っている方の場合、可能な範囲でその人のジェスチャーや、言葉の特徴を掴むよう心掛けている。また、継続して相談を行っている場合は、日々の相談の中で本人の特徴を掴むようにしている。</p> <p>継続して、可能な限り相談者のニーズを把握できるよう努めていく。</p>	<p>評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)</p>

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容	
c 意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。			最初の面談時には、その相談者の支援者、連携機関職員も同席してもらい、本人の気持ちを正しく伝えてもらえるよう配慮している。それ以降については、本人の希望に応じて対応を行っている。		
d 利用者が十分理解するために時間をかけてコミュニケーションを図っている。			本人が希望する面談方法に基づいた対応を継続していく。		
			言語障害が強く、言葉がなかなか出てこない方、また精神的な状況から言葉が出にくい場合は、本人のペースに合わせ、時間をかけて話すように心掛けている。		
			個人の障害によって異なってくるので、その人のペースを掴んで対応を行うよう心掛ける。		
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取組みの改善点及び次年度の取組み)
a 相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めていけるような支援に努めている。			相談者と一緒に課題を解決していくことを心掛けて支援を行い、また必要に応じて代弁者としても役割を持って支援を行っている。		
b 人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。			今後とも相談者と一緒に課題を解決し、支援、代弁の必要があれば入っていく形を継続していく。		
c 虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。			乗車拒否、入店拒否について、相談があった際にはセンターとしてそれがあつた場所(機関、会社等)へ改善要求をあげている。		
			地域生活を支えていくという意味でも、今後とも相談には対応していき、必要であれば改善要求をしていく。		
			これまで虐待についての事例がないため分析できない。		
			虐待の疑いがある場合は、市町村への報告していくよう、事業所内での対応方法も統一していく。		

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名		身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容	
3-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度			今年度	
3-3-① 他関係機関との連携		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組みを提案するなど、協議会の活性化に努めている。		<p>自立支援法施行後、運営困難な事業所が増加しており、また国の予算の問題等で地域社会福祉が後退してきている。これらの状況もあり、社会資源の整理と開拓は必須になっている。今年度から自立支援協議会へ参加し、事業所間のネットワーク作り、社会資源調査、地域障害者訪問調査の提案を行い、現在は社会資源調査票の年度内完成に向けて事務局の一員として動いている。事例検討会へのケース検討においても積極的に発言し、困難ケースを住吉区で支えていけるような体制作りを目指している。</p> <p>自立支援協議会として社会資源調査の完了後、実際に社会資源マップを作成し、その作成過程で事業所の連携を深めていく。またマップ完成後には、来年度から区内障害者の開拓を行う予定である。</p>			
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。		<p>社会資源調査をするにあたっては、事業所間のメーリングリストの作成を行い、連携への第一歩としている。またこれについては事務局間(他団体間)で役割分担を行うことで、まずは事務局間の連携が深まっていると思われる。</p> <p>今年度は社会資源調査を交えて事業所間で連携をしていく。来年以降も自立支援協議会でネットワークとして事業所同士が動いていけるよう、働きかけていく。</p>			
c	必要な方には成年後見制度の申し立て支援や日常生活自立支援事業(旧地域福祉権利擁護事業)の利用支援を行っている。		<p>金銭管理の困難な方など、必要な方にはあんしんさぼ〜との利用紹介を行っている。また金銭の受け渡し時には継続して立ち会っているケースもある。成年後見についてはこれまで事例がない。</p> <p>これまで成年後見の申し立ての事例はないが、必要が生じた際には対応していけるよう、成年後見について学んでいきたい。</p>			
3-3-② 地域の障害者の状況把握		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	相談者に限らず、地域の障害者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。		<p>日々の相談支援の中で、社会資源(介護派遣、日中活動、居住)の把握は行っており、また各種外部勉強会等で制度の動向、中央の動きにも注視している。また、現在参加している自立支援協議会にて、区内で生活する障害者の訪問を行う計画を提案している。</p> <p>相談支援では制度理解が必要だが、特にその地域の実情把握がもっと重要なため、日々の相談や自立支援協議会を通じて、地域で暮らす障害者の状況を把握していく。また自立支援協議会において、来年度、区内障害者宅の発掘ということで、訪問を行う提案をしており、その中で今後も把握していく。</p>			
b	障害者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。		<p>自立支援協議会のケース会議に出たり、アクションプランで“トイレ貸します運動”を展開したりしながら、区内の障害者の生活問題に取り組んでいる。</p> <p>継続して、アクションプラン等、地域活動に努めていく。</p>			

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容	
アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。			法人外の活動として、区内アクションプラン、法人連絡会、住吉元気祭り、大学への講演などに参加をして、情報把握に努めている。 継続して、アクションプラン等、地域活動に努めていく。		
3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。			地域の社会資源の紹介には、サービス提供事業所、その他機関の把握は必須なので、事業所一覧表やパンフレット、リーフレット、事業所で作成したあいえるマップを備えており、常に対応できるようにしている。また今年度の自立支援協議会における社会資源調査により、社会資源を再度把握していく。 社会資源調査よりマップを作成するため、それを加えて情報収集を継続していく。		
学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。			特別支援学校や一般校とのつながりはILP等を通して作っており、その中で情報収集をしている。ハローワークについては、所在地等の把握が現状。 各学校とのつながりは、今後も継続して行っていく。ハローワークについては、情報収集から始めていきたい。		
民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。			地域における委員の把握はしきれておらず、ボランティアについては社会福祉協議会のボランティアビューローを通じて収集している。 自立支援協議会には、各分野の専門委員も参加しているため、そこから把握をしていく。またボランティアについては、継続してボランティアビューローより紹介をしてもらい、その中で把握をしていきたい。		
駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障害者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。			区内全ての設備情報を把握するのは難しいが、公共施設、その他飲食店や商店などについては、アクションプランで作成したトイレマップを用いて収集している。 区内施設にはILPや研修会を通じて行く機会があるので、その中で把握をしていく。		

委託相談支援事業者の自己評価シート

事業所名	身	3	〇〇〇〇	変更又は改善内容
3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取組み)		評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取組みの改善点及び次年度の取組み)
a 既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。		<p>制度の狭間の中に取り込まれる障害当事者は多く、非定型の介護時間数の課題、ヘルパー不足による介護派遣事業所が見つからないケース、生活保護世帯で住宅状況に課題があり引越しの必要性があるケース等、一般的には制度の枠を超えられなかったり、社会資源が必要だがそれが無いというケースが見受けられ、これらに関して区役所と相談をし、自立支援協議会事例検討会でも検討をしたりと改善を図ってきた。また、今年度から始まった自立支援協議会へ参加をし、事業所ネットワークの確立、社会資源調査の提案、区内障害者宅への訪問等の提案を行っている。</p> <p>必要とされる社会資源がないのは、地域で暮らす障害者にとっては死活問題になる。今後も相談支援事業所として、障害者の生活を支える立場から、必要とあれば制度の枠を超えて取り組んでいきたい。また自立支援協議会の枠組みでも社会資源の改善、開発の提案をしていきたい。</p>		
3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取組み)		評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取組みの改善点及び次年度の取組み)
a 多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つかることが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。		<p>困難事例については、相談者への訪問を行うもしくは来所してもらい、ニーズの把握に努めている。その上で、関連事業所を集めてのケース検討会を開催し、その中で課題と方向性を明確にしていく。また課題が大きく、解決が容易では無い場合、自立支援協議会事例検討会へあげている。</p> <p>今後も現在のように、ニーズの把握から関連機関との調整を行っていききたい。</p>		
3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取組み)		評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取組みの改善点及び次年度の取組み)
a 委託相談支援事業者は、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。		<p>2ヶ月に1回機関紙を発行し、地域に活動内容を周知しており、その中で広報活動を行っている。また自立支援法説明会、セミナーの開催や、地域で行われる住吉元気祭りやほっこりハートなどへの参加も行っている。</p> <p>機関紙の発行は今後も継続して行き、地域の取り組みにも参加をしていきたい。</p>		
b 地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障害者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。		<p>2ヶ月に1回機関紙を発行し、地域に活動内容を周知しており、その中で広報活動を行っている。また自立支援法説明会、セミナーの開催や、地域で行われる住吉元気祭りやほっこりハートなどへの参加も行っている。</p> <p>機関紙の発行は今後も継続して行き、地域の取り組みにも参加をしていきたい。</p>		
4 その他の取組み		昨年度	今年度	
4-① 地域移行・退院促進等の取組み	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取組み)		評価点 評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取組みの改善点及び次年度の取組み)
a 地域移行・退院促進・在宅での自立のための具体的な支援・活動を行っている。		<p>施設に入所している障害者を対象としたILPによって自立の第一歩とする足場を作り、そこから本人ニーズに基づく支援計画の作成を行い、これまでできなかった経験を取り戻していけるよう期間を決めて自立支援を行ってきた。内容としては、介助者の使い方(ヘルパー)、制度学習、その他のサービスの利用方法から、生活に直結する金銭管理、栄養管理、体調管理を始め、引越後の行政手続き、その他の手続き等、実際に長期に渡って施設に入所をしていた場合や在宅(親元)で生活をしてきた場合、施設職員や親が全て管理したため、これらを自分で行うという経験がほとんどなく、自分で何をすればよいかわからないことが多く、ILPを繰り返して経験を積むようになっている。昨年度の地域移行については、施設から2名、病院から1名の地域移行を行い、またその他からの移行も1名行った。</p> <p>社会資源の不足が懸念されるが、今後も地域移行への取り組みに力を入れていきたい。</p>		